

「岐阜いちご」豪へGO

県JA会館で出発式 第2便は来月予定



県が開発した独自のブランドイチゴ「岐阜いちご」が25日、オーストラリアに初出荷された。昨年8月、同国が日本産イチゴの輸入を解禁して以降初の輸出であり、県が誇るブランド農産品が、先鞭を付ける形で海を渡る。同日、岐阜市宇佐南の県JA会館で記念の出発式を行い、関係者らが祝った。(富樫一平)

オーストラリア向けの輸力を入れる国が政府間交渉は、農産品の海外展開にの末に実現した。出荷は、

生産や選果梱包の拠点施設を事前登録し、検疫対象となる病害虫の検査など高い条件が求められる。本年度の生産施設は本丸いちご本圃(本巣市)とJA全農岐阜いちご研修所(岐阜市)の2施設が登録し、準備を進めてきた。

岐阜いちごは「華かがり」「美濃娘」「濃姫」の3品種の総称。これまで香港やタイ、フランスなどへの輸出実績があり、2018年度には1・3トンを輸出した。今回、初出荷したのは華かがり約20キと美濃娘約5キ。ともに大粒でジュシーな果実を売りとする。

出発式でオーストラリア向けに初輸出となる「岐阜いちご」をPRする古田肇知事(中央)ら関係者＝岐阜市宇佐南、県JA会館

日本産輸入解禁で国内初出荷



岐阜新聞
Webに動画

27日にメルボルン市内で高級レストランを営むマーク・ノーモイルさんの元に届く予定で、現地での反響を確認する。3月には第2便の輸出を予定。

出発式で、古田肇知事は「(初輸出は)攻めの農業

の象徴。コロナ禍で人の動きは止まったが、モノは違う。岐阜ブランドとしてアピールしていきたい」とあいさつ。生産者の村瀬巧憲さんは「今後は登録施設を増やし、本格的な輸出につなげたい」と語った。その後、JA全農岐阜の山内清久運営委員会会長やJAぎふの櫻井宏組合長らとともに出発するトラックを見送った。